

「土砂災害から身を守るために」

鹿児島県 鹿児島大学附属中学校 1年 藤坂 風佳

昨年8月に、広島に大きな被害をもたらした土砂災害が発生しました。死者や負傷者をたくさん出し、建物の崩壊も多数ありました。テレビのニュースで見たその様子は、つい先ほどまで人がいたとは思えないほどの土砂で家や道路がうめつくされていました。

私が住んでいる家は高台にあります。東日本大震災で発生した津波の情報を知ったとき、家が高台にあるので、少し安心しました。しかし、逆に土砂災害とは隣り合わせではないかと心配にもなりました。実際、今年の梅雨は、鹿児島県の降水量が例年の2倍以上となり、市内でも何か所かで道路の通行止めやJRが運休するほどの土砂災害がありました。私の家の近くでも、生活に影響を及ぼすほどではないものの、山が崩れている所がありました。身近にこのようなことがあると、やはり私たちも防災に対する意識をもたなければならないと強く感じました。

まずは自分の命を守ること。命がなければ他人を助けることもできません。この機会に災害から身を守るためにはどうすればよいのかを考えてみました。

まずは、地域の土砂災害ハザードマップをしっかりと確認しておくことが重要だと思います。各都道府県では、土砂災害防止法に基づいた、詳しい地形図と現地調査をもとに「土砂災害警戒区域及び特別区域」を指定した、ハザードマップがあります。もしも避難しなければならないときに避難場所を知らないと、避難ができず、そのまま命を落としてしまうことになるかもしれません。また、避難の際に危険な道があれば、避けて通らなければなりません。これは、ホームページにも掲載されているので、日頃から自分の住んでいる町のことをしっかりと把握しておくことが重要だと思います。

次に、雨が降り始めたら情報確認をすることが重要だと思います。特に、大雨が予想された場合は、大雨警報や土砂災害警戒情報などに注意することが必要だと思います。テレビやラジオ、インターネットの最新情報や気象庁、各都道府県の砂防部局のホームページ等をチェックし、避難勧告が出ていたら、すぐに指定された避難所へ向かうべきだと思います。さらに、各都道府県や気象庁のホームページには、土砂災害の危険度をリアルタイムで表示する、メッシュ情報もあるので、今いる場所の危険度が高いときには早目に避難すると安心だと思います。

また、豪雨になる前に避難することも、とても大切だと思います。崖下などの危険な場所に住んでいる人は、大雨のときや土砂災害警戒情報が発表されたら、早目に近くの安全な場所に避難すると安心だと思います。さらに、暗くなってからの避難は危ないので、夜の大雨が予想されたら、明るいうちの避難を心がけて、一刻も早く危険区域から出ておくようにしてほしいです。

このように、身を守るためには、情報を確認して早目に避難することが大切ですが、広島土砂災害で最も大きなはたらきをしたのは、近所の人とのつながりだったそうです。以前、ニュースで生存者が多かった地域の人のインタビューを見たときに、地域の連携によって助けられた命があると知りました。アパートの1階の人が家から出られなくなったときに、上の階の人がはしごを降ろしてくれ助かったという事例があったのです。これは、アパートの住人同士のつながりがあったからできたことだと思います。また、災害時のお年寄りの方の救助の担当を決めていてそれを実践したことによって多くの命が助かったという地域もあるそうです。私も、日頃から地域とのつながりを大切にしていきたいと思いました。

土砂災害の予防は、私たちだけでは難しいことです。自治体や政府は、土砂災害の予防として、次の二つのことに取り組んでいます。

1つ目は、防止用具の設置です。山が崩れても土砂が住宅に入らないように、砂防堰堤を作っているそうです。また、応急対策として強靱ワイヤーネットの設置を進めているそうです。

2つ目は、土砂災害防止に関する法律の改正を行い、各地域の土砂災害の危険性についての基礎調査結果公表をしたり、土砂災害警戒情報を避難勧告の判断基準としたりしています。また、毎年6月を「土砂災害防止月間」として、土砂災害全国防止訓練を行っています。自治体や政府もたくさんの予防処置を施していることが分かりました。

私ももし、土砂災害が起こったときにきちんとした対応ができるように、日頃から防災意識をしっかりともち、周囲の人にも関心をもってもらえるよう、呼びかけていきたいと思っています。